

白石区ゆかりの地、登別へ

「白石」という名の由来、登別市とのつながり。

歴史をひもときながら、わがまちを知る旅に出掛けませんか。

お問い合わせ 区総務企画課広聴係 ☎861-2410

歴史

戊辰戦争で領地を失った片倉家

明治元年（1868年）、戊辰戦争で仙台藩は、薩摩藩・長州藩を主体とする新政府軍に敗戦。藩の重臣で白石城（現在の宮城県白石市に位置）の城主だった片倉小十郎邦憲が治めていた領地や城、屋敷などは没収され、家臣とその家族7400人余りが路頭に迷いました。



▶白石城

北海道への移住

生活の糧を失った片倉家は、明治政府が進めていた蝦夷地（現在の北海道）開拓の移民計画に応

じることを決意。明治2年（1869年）に胆振国幌別郡（現在の登別市）を支配地として与えられ、翌年、翌々年にかけて、邦憲の子の景範や孫の景光、家臣約200人が移住しました。

明治4年（1871年）、白石市に残っていた家臣のうち、片倉家老の家柄の佐藤孝郷率いる一行は、咸臨丸と庚午丸に分乗し北海道へ出発。しかし、咸臨丸は木古内沖で座礁したため、函館に入港した後続の庚午丸に便乗し、小樽へ上陸。徒歩で石狩浜にたどり着きました。



▶咸臨丸

もう一つの「白石」が誕生

孝郷らは、移住地を現在の白石区の望月寒川流域と定め開墾。国道12号沿いの白石公園（菊水上町1条3丁目）付近から白石神社（本通14丁目北）までの約5kmに、短期間で住まいを完成させました。北海道開拓使判官の岩村通俊は、その奮闘ぶりをたたえ、孝郷らの郷里「白石」の名を取ってこの地を「白石村」とすることを認めました。移住には、幌別へ調査に渡った孝郷の経験が生かされたともいわれています。

※歴史は諸説あり、一説に基づいて記載しています。

区役所でパネル展を開催



平成26年8月に、白石区役所で登別市の歴史や魅力を伝えるパネル展を開催。片倉家移住の歴史や、昭和48年に閉山した幌別鉱山などを紹介しました。

白石区民が登別市へ

平成25年に行われた「登別市白石市姉妹都市30周年記念式典」に白石区民が訪問し、白石音頭を披露。登別市民も踊りに参加して友好を深めました。



白石区ふるさとまつりに



毎年7月に開催している「白石区ふるさとまつり」には、平成10年から登別市長が参加しています。今年は登別市観光PRキャラクターの登夢くんも登場。

つながる

登別市と白石区はさまざまな交流をしています。

広告

